

新課程を見据えたコミュニケーション英語の授業実践

遠藤 修史

1. はじめに

周知の通り 2022 年に高等学校の新学習指導要領が実施される。新指導要領での理想的な新しい授業のあり方について、日本全国の高校現場にて各教員による暗中模索が続いている。2015 年に幸運にも文部科学省後援の英語教育推進リーダー中央研修に参加する機会を得た。これを契機としてそれまでの文法訳読式授業を改め、英語 4 技能をトータルで向上できるようなオールイングリッシュによる授業づくりを、試行錯誤を重ねながら実施してきた。それから 5 年余りの実践の中で、新しい学習指導要領の記載項目に合致できるような授業を少しずつ展開できるようになってきた。また、2018 年には下山田芳子教科調査官による新学習指導要領に関する説明会に参加する機会を得ることができ、以降は新課程をなおいっそう意識しながら授業づくりを心がけている。本稿では日ごろコミュニケーション英語の授業の中で実際に生徒たちに実践している授業活動や展開例を紹介していく。

各授業における言語活動としてペアワークやグループワークが盛り込まれている。毎回違う人とペアやグループになってほしいので、シリアル番号を記入した割り箸をくじ代わりに引いてもらい、授業のたびに違う座席で違うパートナーと言語活動を実践している。

2. 標準的な授業の流れ

教科書各レッスンの 1 つのパートを基本的に 2 時間ワンセットで展開している。パートごとにワークシートを作成し、それに沿って授業実践をしている。教科書の内容次第では言語活動を通常の半分程度で済ませ、1 時間で 1 つのパートを終えることもあるが、本稿では一番基本となる 2 時間ワンセットの授業をベースに授業内容と生徒の言語活動について紹介していきたい。

1 時間目

- ・新出単語を利用した Vocabulary Building Activities
- ・本文 CD のリスニング+教員が読んだ後のリピート
- ・新出単語を使った Specific Sentence づくり

2 時間目

- ・新出単語の Review
- ・本文 CD の音声に合わせた Whispering
- ・音読活動
- ・メインのタスク

3. Vocabulary Building Activities について

現在は 3 つの活動を実施している。

①各新出単語の Synonym/Antonym/Other parts の書き出しとシェア

★Let's think of the <u>synonyms</u> , <u>antonyms</u> , and <u>other parts</u> of each word.				
Notes				
synonyms ex) big → large				
antonyms ex) big → small				
other parts ex) courage courageous courageously encourage encouragement (n.) (adj.) (adv.) (v.) (n.)				

活動の流れは以下の通りである。平均 2 分間で新出単語を確認し、各自のワークシートに Synonym/Antonym/Other parts それぞれについて思いついたものを記入する。各分類について最低でも 1 つは書き出すように指導している。また、多くの生徒は電子辞書を常時携帯しているので、記憶が曖昧なものについては確認のために使用することを許可している。2 分経過後はペアになり書き出したものをパートナーと英語でシェアする。その後、何人かの生

徒を指名し書き出したものを教員とのやり取りの中で全体でシェアする。

②新出単語と英語 Definition のマッチング

※Verbs		
Lesson 9 Part 2		
	English	Definition
1		a strong wish or hope
2		a person aged from 13 to 19 years old
3	skydiving	a sport in which you jump from an aircraft and fall through sky
4		to give attention to one subject
5		to say something important in public
6	drum	a musical instrument which you hit to make a sound
7		by good luck
8		to succeed in doing something difficult
9		to move along in a smooth way
10		a large number of people together in one place
11	pound(s)	the unit of money that is used in Britain
12		the act of giving help to people in need

skydiving drum(s) crowd manage(d) charity desire
 focus teenager(s) pound(s) flow(ing) announce(d)

fortunately

こちらの活動も各生徒が2分間でマッチングを行う。その後ペアになり答えのすり合わせを英語でする。このときのやり取りもすべて英語で行う。生徒の活動終了後に全体に向けて、“If you still have any words you are not sure about, raise your hand.”と指示を出す。手が上がり不明な単語があれば教員がその単語の Definition を読み上げ、必要に応じて他の説明や例文を英語で提示し、生徒に理解させる。

③新出単語のマインドマップ作成と Drawing Pictures

☆Let's make Mind Maps or draw Pictures of new words!!

1(Mind-map)	2
3	4(Draw a picture)
5	6

最後の活動は個別に単語のマインドマップを作成することと絵を描くことである。4～5分くらいで1単語につき1個マインドマップか絵の描写をさせる。マインドマップはオーバルの中に単語を書かずに、ブランチに英語のフレーズで説明文を書かせるようにしている。また、実態のある名詞に関しては絵にしやすいこともあり、こうした単語は絵を描くように推奨している。時間になったら、ペアでワークシートを交換させ、それぞれの単語を連想させる。もちろんこれも英語にて行う。生徒のスピーキング能力が向上してきたら、活動のおわりに“Your mind map is very easy to understand.”や“I really like your drawings.”のような褒め言葉を言うように指導し、生徒がよい雰囲気英語による言語活動ができるように努めている。

4. フレーズ本文と日本語サイトトランスレーションの提示

Vocabulary Building Activities の後は本文 CD のリスニングを行う。本文和訳は全く行わないが、英語が得意な生徒もいれば苦手とする生徒も存在する。英語モノリンガルでの理解力を向上してほしいが、本文内容が理解できなくては本末転倒であるので、左側にフレーズ本文、右側に日本語サイトトランスレーションが載ったワークシートを提供している。CD リスニングの前に1～2分程度の時間を与え、日本語訳を先に読ませるようにしている。これを実践すると最初のリスニングによる本文理解がかなり深まる。また、この形態の授業実践を継続しおよそ半年ほど経過すると生徒の英語モノリンガル理解能力が向上してくるので、“Before listening to the CD, you can look over the text. If possible, you should read it only in English. When you find any words or phrases you are not sure about, you can read Japanese. Do your best, guys.”などと声かけをすると、上位層の生徒たちはほとんど日本語訳に頼ることなく初見の英文を英語のみで理解しようとするようになる。これを続けていくと英語は基本英語で理解するという自然な状態が各生徒の頭の中で醸成される。

CD リスニングをした後は教員の後をリピートさせる。ネイティブスピーカーの音声の後をリピートさせる手法もあるが、私は自分の後をリピートさせ

ることにこだわっている。その理由は、生徒の音読技量の成長具合に合わせ、意図的にスピードやフレーズの音声変化をコントロールできるからだ。例えば、初心者は a lot of は「ア ロット オブ」というふうな発音をしがちであるが、ネイティブスピーカーの自然な音は「エロロブ」のようになる。ネイティブスピーカーによる英語の自然な発話には Catenation/Intrusion/Elision/Assimilation のような音声変化が目まぐるしく起こる。故に、生徒にはこうした音声変化のメカニズムはわからなくても、リピーティング活動をする中で自然な英語の発話の仕方を体得してほしいので、これを毎回実践している。フレーズ本文と日本語サイトトランスレーションは教科書補助資料 CD-ROM に収録されているものを引用してワークシートに載せている。

Lesson 9 Part 2	
English	日本語
There were 46 things	46の事柄があった
on Stephen's list.	スティーブンのリストには
For example,	例えば
he wanted to go skydiving,	彼はスカイダイビングをしたかった
to write a book,	本を書きたかった
and to play the drums	そして、ドラムを演奏したかった
in front of a large crowd.	大観衆の前で
Before he died,	死ぬ前に
he managed to do all of these,	彼はこういことすべてをやり遂げた
and many others.	そして、他にも多くのことを
In fact,	実際
he was able to achieve	彼は達成することができた
more than half of his goals.	自分の目標の半分以上を
For Stephen,	スティーブンにとって
the most important goal of all	あらゆる目標の中で最も重要なのは
had to do with charity.	チャリティに関するものだった

(Revised POLESTAR English Communication 1 Teacher's Manual, 付属データ CD-ROM より)

5. 新出単語を使った Specific Sentence づくり

各パート1時間目のメインタスクとして、新出単語を使った英文の作成をさせている。授業冒頭での Vocabulary Building Activities の最終段階として、生徒たちがこれまでに獲得した発信語彙(Active

Vocabulary)をうまく使いながらの英文づくりを行う。およそ5分間で3文程度作成することを促している。詳細は以下の通りである。任意の1単語を選択し、それを含んだ意味の通る英文を作成する。作成後にはペアワークがあり、その新出単語だけを言わないで相手に連想してもらう活動をする。具体例を紹介する。

新出単語: skydiving, drum(s), crowd, manage(d), charity, desire, focus, teenager(s), pound(s), flow(ing), announce(d), fortunately

例文: I never want to go (). I don't like taking airplanes, and I am even scared to climb up any towers or mountains.

上の文の()には skydiving が入るのだが、ペアワークの際には、読み手が()の部分で“blah blah blah”と発話する。聞き手はその部分に新出単語のうちのいずれかが入ることがわかっているのだから、前後の情報から()に入る単語を推測することができる。生徒は文をつくるときに、どういった情報を前後に踏まえれば聞き手が理解しやすい文になるか考えなければならないので、深い思考力が要求される。聞き手側も正解が得られるように高い集中力が求められる。入学当初は6語以上の文を作成する目標で始めるが、1年生の後半になると15語以上の文も難なく書けるようになる。英語の特性上長めの文をつくるためには必然的に接続詞・関係詞・分詞・動名詞・不定詞などの文法項目を含める必要があり、この活動を通して各生徒は Accuracy と Fluency を同時に高めていく。文が長くなれば、2文で書くことも可としている。

2時間目の授業の最初の活動は新出単語の Review になるが、前述の通り授業のたびにペアが変わるので前回の授業時とは別の生徒とペアワークを行う。また、Specific Sentence の英文に関しても常々家庭にて見直しをすることを推奨しているのだから、1時間目の授業時に作成した英文の細かい間違いを修正したり、情報を加えたりしてより洗練された文を書いて2時間目にのぞむ生徒が多い。

6. 音読活動について

2時間目に行う音読活動として以下の4つを実践

している。

- ① CD の Overlapping
- ② クラス一斉で Read and Look-up
- ③ ペアで Shadowing
- ④ ペアで Blank Reading

①～③の活動は教科書またはワークシートのフレーズ本文を使用する。Shadowing は 2～3 語のフレーズごとに行うことを推奨している。④の活動は教科書本文の新出単語、前置詞、動詞、ランダム、数語おきといったように、項目別に()を設けた本文シートを使用し、読み手が穴埋めをしながら音読をする。聞き手は読み手が詰まってしまったら、ジェスチャーを示したり、先頭文字を教えたり、英語でヒントを与えたりしながら、完読できるようにサポートする。1つのワークシートにレベル別に複数の Blank Reading 用本文を掲載している。

7. 2時間目のメインタスクについて

生徒が本文内容を理解しているか確認するための活動として以下のことを実践している。各授業で下記のタスクのうち1つを選択し実施する。各活動はペアかグループで実施した後、必ず全体でもシェアをする。

① 5W1H クエスチョンの作成

本文内容に関する 5W1H クエスチョンを個別で作成し、ペアやグループで Q&A 活動をする。疑問文は英語の基本である主語＋動詞の語順が崩れるものが多く、be 動詞・一般動詞・助動詞・完了形によって動詞の部分で Accuracy が問われるので文法知識も必要となってくる。また、実生活で英語を使うとなると、人にものを尋ねることは必須項目なので、3年間の指導の中で正確な文を書ける・言えるようにしっかりと身につけさせたいと思っている。

② T/F 問題の作成

本文内容に関する True or False 文を各自で作成しペアで Q&A 活動をする。1年の最初は任意の本文を1文選び、その中の1語だけを換えて T/F 文を作成させる。その後は生徒の能力向上とともに、1文中の2語を換える、接続詞や関係詞を使って2文を1文につなぎ合わせる、置き換え可能な語句(interchangeable words and phrases)を使って2文を1文にまとめる、本文の各パラグラフを

置き換え可能な語句を使って2～3文でパラフレーズするなど、少しずつ負荷を与えてレベルアップした T/F 文がつかれるように指導していく。作成後はペアワークや全体シェアがあるので、リスニング力も同時に養成されていく。

③高負荷の Blank Reading

総語数の 1/4 から 1/3 が()になったシートを完読させることを目的としている。ペアで協力して取り組ませ、授業の最後に何人かの生徒が全員の前で完読に取り組む。

④本文の Paraphrasing

本文内容を表した複数の写真や絵、マインドマップなどを利用して本文を口頭でパラフレーズする。本文の表現をそのまま使うのではなくできるだけ置き換え可能な語句を用いて自分の英語で実践するように指導している。

8. おわりに

新しい授業を数年にわたり実践する中で、従来の文法訳読式授業との違いがはっきりとわかるようになってきた。現在の授業では生徒が英語を使う場面が圧倒的に多いのだ。授業内での私の役割は「教える」ことよりも生徒が英語を使いやすいように「促す」ことや「導く」ことに重きが置かれている。英語学習者として生徒は当然ながら成長過程にあり、間違いを多く含んだ英語を話したり書いたりするのである。間違いをそのままにしておけば生徒が英語を使うときの Accuracy が一向に高まらない恐れもある。故に、これからの英語教員には生徒の間違いを適度に直し、適度にスルーしながら学習意欲をそがずに4技能向上を図れるように授業を進めていく技量が求められると実感している。そしてこの見極めは各教員が授業実践を繰り返し、自ら体感することでしか身につかないものであると思う。

参考文献

平成 27 年度 「英語教育推進リーダー中央研修」教材
使用教材
Revised POLESTAR English Communication
 I. 数研出版.

(山梨県立甲府第一高等学校 教諭)